

6331-135

平成16年1月29日

各関係機関の長

各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除所長

平成15年度病害虫発生予報第10号について

平成15年度病害虫発生予報第10号を発表したので送付します。

平成15年度病害虫発生予報第10号

向こう1か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

○発生予報の概要

作物名	病害虫名	発生量の 平年比	記載ページ
冬春キュウリ	べと病	並	2
	うどんこ病	多	2
	褐斑病	並	2
	ミナミキイロアザミウマ	並	2
冬春ピーマン	斑点病	並	2
	うどんこ病	多	3
	ミナミキイロアザミウマ	やや多	3
	ヒラスハナアザミウマ	やや少	3
冬春トマト	葉かび病	並	3
	灰色かび病	並	3
	ハモグリバエ類	やや少	3
	コナジラミ類	並	4
	トマト黄化葉巻病 (TYLCV)	—	4
冬春イチゴ	うどんこ病	並	4
	ハダニ類	やや多	4

○作物の生育状況（1月中旬）

冬春キュウリの促成栽培、冬春ピーマン、冬春トマト、冬春イチゴは収穫期で、冬春キュウリの半促成栽培は定植直後であった。

○2月の気象予報

平年に比べて曇りや雨の日が多く、気温は平年並か平年より高く、降水量は平年並か平年より多く、日照時間は平年並か平年より少ないと予想されています。

（1か月予報 鹿児島地方気象台1月23日発表）

○発生予報の根拠および防除対策

冬春キュウリ

1. べと病

[予報の根拠]

1)促成キュウリでは、1月中旬の発生面積率76.4%（平年70.9%）、発病葉率15.4%（平年18.2%）は平年並である。

[防除上の注意]

1)多湿条件で発生しやすく、発生が多くなると防除効果が上がりにくいので、予防散布に重点をおき発生が見られたら初期防除を徹底する。

2)肥料切れや草勢の衰えは発生を助長するので、肥料切れしないように肥培管理に注意する。

2. うどんこ病

病害虫発生予察注意報第5号（平成16年1月29日発表）参照

〔予報の根拠〕

1) 1月中旬の発生面積率70.6%（平年41.2%）、発病葉率12.8%（平年4.9%）は平年より多い。

〔防除上の注意〕

- 1) 発生が多くなると防除効果が上がりにくいので、発病を確認したら早めに防除する。
- 2) 耐性菌を生じやすいので、系統の異なる薬剤をローテーションで使用する。
- 3) 乾燥時に発生が多くなるので、ほ場が過乾燥にならないように管理に注意する。

3. 褐斑病

〔予報の根拠〕

1) 1月中旬の発生面積率29.7%（平年29.9%）、発病葉率5.8%（平年3.5%）は平年並である。

〔防除上の注意〕

- 1) 発生が多くなると防除効果が上がりにくいので、初期防除を徹底する。
- 2) 窒素質肥料の多用は発病を助長し、過繁茂になって通風を妨げるので適正な肥培管理に努める。
- 3) 下葉の発病葉はほ場外に持ち出し処分する。

4. ミナミキイロアザミウマ

〔予報の根拠〕

1) 1月中旬の巡回調査では17ほ場中7ほ場で発生を確認したが、いずれのほ場も葉当り虫数0.5頭以下の微発生である。

〔防除上の注意〕

- 1) 発生が多くなると防除効果が上がりにくいので、低密度の内に防除する。

冬春ピーマン

1. 斑点病

〔予報の根拠〕

1) 1月中旬の発生面積率9.1%（平年41.2%）は平年よりやや少なく、発病葉率1.4%（平年4.4%）は平年並である。

〔防除上の注意〕

- 1) ハウス内が高湿多湿にならないように、換気と水管理に注意する。また、整枝を行って茎葉が過繁茂にならないようにする。
- 2) 病原菌が植物体に侵入した後の防除効果は低いので、予防散布を行う。

2. うどんこ病

病害虫発生予察注意報第5号（平成16年1月29日発表）参照

〔予報の根拠〕

1) 1月中旬の発生面積率90.9%（平年46.4%）は平年より多く、発病葉率9.9%（平年4.6%）は平年よりやや多い。

〔防除上の注意〕

- 1) 乾燥した条件で発生しやすいので、乾燥させすぎないようにする。
- 2) 発生が多くなると防除効果が上がりにくいので、発病を確認したら早めに防除する。

3. ミナミキイロアザミウマ

〔予報の根拠〕

1) 1月中旬の発生面積率63.6%（平年28.6%）は平年より多く、10花当り寄生虫数1.84頭（平年1.14頭）は平年よりやや多い。

〔防除上の注意〕

- 1) 10花当り寄生虫数が1頭から被害果が出始める。また発生が多くなると防除効果が上がりにくいので、低密度の内に防除を徹底する。

4. ヒラズハナアザミウマ

〔予報の根拠〕

1) 1月中旬の発生面積率18.2%（平年29.9%）、10花当り寄生虫数0.55頭（平年6.17頭）は平年よりやや少ない。

〔防除上の注意〕

- 1) 発生が多くなると防除効果が上がりにくいので、低密度の内に防除を徹底する。

冬春トマト

1. 葉かび病

[予報の根拠]

1) 1月中旬の発生面積率10.0% (平年7.0%) は平年よりやや多く、発病葉率3.2% (平年0.3%) は平年並である。

[防除上の注意]

- 1) 多湿条件で発生しやすいので、ハウスの換気を良くする。
- 2) 発病初期の防除を徹底する。

2. 灰色かび病

[予報の根拠]

1) 1月中旬の巡回調査では発生未確認である。

[防除上の注意]

- 1) 多湿条件で発生しやすいので、日中の換気、夜間の加温等で湿度低下をはかり、曇雨天日には加温機の送風を作動させる等、結露防止に努める。
- 2) 花卉の発病に注意し、初期防除を徹底する。なお、薬剤耐性菌が出現しやすいので、系統の異なる薬剤をローテーションで使用する。

3. ハモグリバエ類

[予報の根拠]

1) 1月中旬の発生面積率20.0% (平年45.8%)、寄生葉率1.1% (平年5.2%) は平年よりやや少ない。

[防除上の注意]

- 1) 発生が多くなると防除効果が上がりにくいので初期防除を徹底する。

4. コナジラミ類

病害虫発生予察注意報第3号 (平成16年1月6日発表) 参照

[予報の根拠]

1) 1月中旬の巡回調査では10ほ場中5ほ場で発生を確認したが、いずれのほ場も葉当り寄生虫数0.5頭以下の微発生である。

[防除上の注意]

- 1) シルバーリーフコナジラミはトマト黄化葉巻病を媒介するので、後述の「5. トマト黄化葉巻病 (TYLCV)」を参考に防除する。

5. トマト黄化葉巻病 (TYLCV)

病害虫発生予察注意報第1号 (平成15年8月11日発表) 参照

[防除上の注意]

- 1) 宮崎市及び周辺地域で被害が発生している。トマト黄化葉巻ウイルス (TYLCV) はシルバーリーフコナジラミによって他の株に次々に伝染していくことから、発病株は見つけ次第抜き取り、ビニール等の袋に入れて施設外に持ち出し埋没処分するかビニール等の袋に入れたまま枯死するまで隔離する。
- 2) 栽培施設内外の雑草及び栽培植物はシルバーリーフコナジラミの増殖を助長する種類が多いので、除草を徹底し栽培目的以外の作物や観葉植物等を栽培しない。
- 3) シルバーリーフコナジラミの施設への侵入を防ぐために、施設の開口部は最低0.8mm目以下の防虫ネットを設置すると効果が認められる。
- 4) 施設内に黄色粘着トラップを設置し、シルバーリーフコナジラミの早期発見と初期防除に努める。
- 5) 収穫期間終了後は、シルバーリーフコナジラミを施設外に出さないために、残さが枯死してからさらに1週間程度蒸し込み、シルバーリーフコナジラミを死滅させてから、残さを処分する。

冬春イチゴ

1. うどんこ病

[予報の根拠]

1) 1月中旬の発生面積率16.7% (平年31.8%) は平年並、発病葉率0.5% (平年2.3%) は平年よりやや少ない。

[防除上の注意]

- 1) 葉裏に発生しやすいので早期発見に努め、初期防除を徹底する。
- 2) 発生が多くなると防除効果が上がりにくいので、予防に重点をおき、発病後は散布間隔を短くするなど発病初期の防除を徹底する。
- 3) 発病果など被害部は伝染源になるので早めに取り除きほ場内に放置しない。

2. ハダニ類

病害虫発生予察注意報第4号（平成16年1月6日発表）参照

〔予報の根拠〕

1) 1月中旬の発生面積率66.6%（平年43.4%）は平年よりやや多く、寄生株率9.3%（平年8.7%）は平年並である。

〔防除上の注意〕

- 1) 発生が多くなると防除効果が上がりにくいので、低密度時から防除を徹底する。
- 2) 株整理後の葉数が少なくなった時期に薬剤散布を行うと防除効果が高くなる。茎葉繁茂時には散布圧を強めて、葉裏に良くかかるように散布する。
- 3) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、系統の異なる薬剤をローテーションで使用する。

○その他

1. 農薬適用の有無などについては次のホームページで確認する。

日本植物防疫協会ホームページ <http://www.jppn.ne.jp>

農林水産省ホームページ <http://www.maff.go.jp/nouyaku>

2. 農薬の使用に当たっては、農薬安全使用基準の遵守並びに危被害の発生防止に努める。特に水質汚濁性農薬ベンゾエピン剤（商品名、マリックス乳剤、粒剤等）は使用しないこと。

3. 発生量（程度）の区分

多い（高い） やや多いの外側10%の度数の入る幅

やや多い（やや高い） 平年並の外側20%の度数の入る幅

平年並 平年値を中心として40%の度数の入る幅

やや少ない（やや低い） 平年並の外側20%の度数の入る幅

少ない（低い） やや少ないの外側10%の度数の入る幅

（平年値は過去10年間の平均）

○お知らせ

病害虫防除所では、ホームページ（アドレスは<http://www.jppn.ne.jp/miyazaki>）で、予察情報の根拠となる地域別調査データ、防除対策等の情報を提供していますのでご利用ください。

最近の登録内容

1. 病害虫発生予察注意報第3号（平成16年1月6日発表）

2. 病害虫発生予察注意報第4号（平成16年1月6日発表）

3. 病害虫発生予察注意報第5号（平成16年1月29日発表）

[Back](#)